

三田農林株式会社 三田牧場 社員募集(2027年新卒採用)

100年以上続く酪農牧場
放牧とジェラートカフェで地方に人を呼ぶ



2026年

三田農林株式会社 三田牧場 社員募集

- ・三田農林は100年以上もの間、農林牧畜業を行ってきました。
- ・地方の厚生に役立ちたいという創業者の精神が根付いています。
- ・不動産賃貸業も行い街の収益を農林牧畜業に投入しながら自然の恵みを街に還元しています。
- ・自然と街が支え合い、どちらも魅力的に豊かになるように。

さあ、一緒に働きましょう。



2

三田牧場の求人

1. 対象

2027年3月に大学、短大、専門学校を卒業予定の方。普通自動車運転免許必須。ワード、エクセル使える方。

2. 募集人数

社員1名

3. 就業場所

三田牧場 北海道岩内郡共和町小沢867

JR函館本線 小沢駅から徒歩15分

3

4. 仕事内容

牛追い、搾乳、牛舎清掃、アイス製造、カフェ店員、牧場体験案内などです。

将来的には飼育方法考案、繁殖、草地管理、糞尿の有効活用、商品開発、販売などにも携わり、会社員でありながら牧場運営を全般的に行います。広大な自然から飲み物や食べ物、気持ちいい場所を作って提供し地方を豊かにする仕事です。



4



5. 1日の仕事の例

6時～15時 牛追い→搾乳→牛舎清掃→その他→休憩→その他

9時～18時 アイス製造→休憩→搾乳→牛舎清掃

6時～18時 牛追い→搾乳→牛舎清掃→その他→休憩→牛追い→搾乳→牛舎清掃

6時～18時 牛追い→搾乳→カフェ店員→搾乳→牛舎清掃



5



6. 求める人物

①学ぶ姿勢があり、考える力がある方。

酪農は分野の幅が広く、自然相手なのでうまくいかないことがあります。学びながら自分なりの正解を求めることが必要です。

②自然と一体になって働きたい方

放牧酪農は草を育み、牛に食べさせて生乳を得ます。自然をコントロールする一方で逆らうことができません。いわば自然と一緒に働くということです。時間や季節ごとに移ろう雄大な放牧地では、自分も自然に生かされていることを感じられます。

③人を喜ばせたい方

ジェラート販売や牧場体験も行っていますので、お客様から喜ばれます。自分が関わった飼育の成果をお客様から感じられる稀有な職場です。



6

7. 給料・諸手当

基本給 大卒208,200円、短大・専門学校卒192,600円、飼育手当12,000円、住宅手当(持家の場合20,000円・社宅外賃貸の場合10,000円)、家族手当、暖房手当、通勤手当(2km以上の場合上限35,000円)、帰省手当、賞与年2回(合計2.2か月分)。

8. 福利厚生

社会保険完備。借り上げ住宅支援あり。2027年に宿舎を建築予定。資格取得支援あり。

9. 勤務時間

シフト制 6時～15時(休憩120分)、9時～18時(休憩120分)、6時～18時(休憩180分)

10. 休日

シフトにより週1日、隔週2日。連休希望は都度柔軟に対応。

7

選考方法

1. 牧場見学

応募をお考えの方は事前に牧場を見学していただきます。遠方の方には往復の交通費を支給します。宿泊をご希望の方は場内に宿泊施設をご利用いただけます。

【氏名、性別、生年月日、年齢、住所、電話番号、最終学歴、見学希望日、場内宿泊の有無】を下記までお知らせください。

三田牧場 北海道岩内郡共和町小沢867 大田篤志

TEL 0135-72-1412 FAX 0135-72-1245

8

2. 採用試験

牧場見学後、応募される方は2026年5月29日(金)必着で履歴書、成績証明書、卒業見込証明書を下記にお送りください。

三田農林株式会社 本社 〒020-0021 岩手県盛岡市中央通1-1-23 藤井貴史宛

書類選考のうえ、採用試験を6月中旬から7月中旬に岩手県盛岡市の本社で行います。遠方の方には往復の交通費、宿泊費(1万円を上限)を支給します。試験内容は下記です。

- 作文記述…複数のテーマについて自らの考えを書いていただきます。
- 面接

求人に関する問い合わせ先

三田農林株式会社 岩手県盛岡市中央通1-1-23

藤井貴史、田中和則 TEL019-624-2120 FAX019-624-2181

9

三田農林株式会社 概要

- 本社 岩手県盛岡市中央通1-1-23
- 創業 1900年 125年の歴史
- 資本金 1,200万円
- 社員 22名
- 売上 9億円
(2024年6月～2025年5月)
- 事業 森林経営、果樹栽培、酪農、不動産賃貸業
- 不動産賃貸業により、経営は安定。



10

理念

- 農林牧畜業で地方の厚生に役立つという理念。
- 農林牧畜業と不動産賃貸業。
- 相反する自然と街を活用して事業を行っていることが大きな特徴。この両面から地方を活性化させます。

農林牧畜業	不動産賃貸業
森林経営	
果樹栽培	土地、住宅、店舗、駐車場
酪農	

11

農林牧畜業

- 森林経営
岩手県と北海道に2000haの森林を所有して林業を行っています。東京ドーム400個分。
- 果樹栽培
岩手県盛岡市の農場で20種類のりんご、10種類の梨を生産。りんごジュースも製造して販売。
- 酪農
北海道共和町の三田牧場で酪農を行っています。約50頭の乳牛を放牧で飼育。牧場内でアイスを製造。カフェを併設しジェラートを提供しています。



12

不動産賃貸業

- 住宅

岩手県盛岡市、北海道室蘭市などで48棟の貸家、160室のアパートやマンションを建築して賃貸。明治から大正時代の貸家も当時の雰囲気を残しつつリノベーションを行っています。間取り変更、断熱強化、水回りの刷新など。



- 店舗

岩手県盛岡市でスーパーやコンビニを建築して賃貸。商業施設を運営。積極的に木材を使い、心地よい空間や人が集まる場所を提供しています。



13

三田牧場の立地

- 三田牧場は札幌から西に車でわずか90分の北海道共和町にあります。
- 日本海に近く海産物や農産物が豊富でおいしい自然豊かな町。夏は登山、冬はスキーなど気軽に大自然を楽しめます。
- 放牧地の眼下にはニセコ連峰や羊蹄山が望め、背後には東京ドーム170個分の自社森林を擁しています。
- 2021年には管理棟を建替えました。アイス製造室とジェラートカフェを併設し、自社山林の木を使用したぬくもりのある空間です。



14

三田牧場の歴史

- 1902年に創業者三田義正が岩手県から開拓に入りました。123年と北海道最古級の歴史があります。
- 当初は農耕馬や軍馬の繁殖でしたが酪農に移行しました。過去に行っていたバター生産では、1919年に農林省主催畜産工芸博覧会で二等賞銀牌などいくつかの賞を受けられました。



15

酪農の必要性

- 食生活を支える → 牛乳はカルシウム等の栄養素が含まれています。加工食品の原材料にも幅広く利用。乳製品は嗜好品。生活を豊かにします。
- 観光 → 放牧地のきれいな風景と牛を見ながら牧場を楽しめます。
- 地域の活性化 → 人口減少時代。牧場があるだけで人が訪れ、雇用が生まれます。



16

放牧酪農

- 約50頭を飼育。北海道では5～10%しかない放牧型の酪農を行い年間230tの生乳を出荷。繋ぎ飼いや牛房内より行動範囲が広がるため牛はストレスが軽減されます。起伏のある放牧地で夜も放牧を行っているのでとても丈夫。
- 放牧により美しい景観が保たれています。



17

牛を大切にする

- 牛を飼うことに責任を持ち、大切にしています。
- 外部からの導入はなく、生まれてから死ぬまで牧場で暮らします。数回の出産で廃牛にするのではなく長く飼育して命を全うさせます。



18

アイス製造

- 放牧でストレスなく育てた牛から搾られたばかりの生乳をいち早く使用。68°C30分間で味が変わらないように低温殺菌。
- 原料は基本この生乳と生クリームと練乳の最低限とし、急速冷凍して味を閉じ込めます。保存料は使用しません。
- 食べたときに放牧牛ならではの生乳のコクと甘み、すっきりとした後味が特徴。



19

アイス販売

- ミルク、バニラ、ラムレーズン、抹茶、いちごみるく、チョコレートの6種類。
- 2020年に北海道主催の北のハイグレード食品に認定。
- 年間販売数は6万7千個。
- 共和町のふるさと納税返礼品で使用。



20

ジェラートカフェ

- 牧場内には飼育牛の生乳を使ったジェラートを楽しめるカフェを営業しています。定番6種類に加え、季節ごとに地元や本社岩手県の食材を使った味も提供しています。店内の大きな窓から牛を眺めてゆったりしてもよし、放牧地の真ん中で自然と一体になって食べてもよしです。



牧場体験

- 牧場体験で家族や修学旅行の受け入れを行っています。
- 放牧地散策、搾乳、バター作り、アイス作り、スノーシューなどを体験できます。

